講演会報告

エコメール NO.5
生活クラブ生協大阪
環境委員会　2022.9.13

「未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話」

原田禎夫さん

７月１３日、プラスチック問題ついて知り、どのような暮らし方をしていくか考える機会となるよう、先進的な取り組みをしている京都府亀岡市で長年活動をされてきた大阪商業大学准教授の原田禎夫さんのお話を聞きました。

海外のプラスチック対策は

テイクアウトのプラ容器禁止。プラスチックのレジ袋を禁止し、紙製の袋を販売。食品をプラスチックで包むのは気持ち悪いという感覚があります。

日本のプラスチックの国内リサイクル率はたったの１６％程度

回収された８００万トンのうち６８％は、かつては「サーマルリサイクル」と言われていた熱回収と単純焼却処理。リサイクル（マテリアル・ケミカルリサイクル）は ２６％ですが、マテリアルリサイクルの半分はリサイクルという名で海外（マレーシアやベトナム、台湾など）に依存。リサイクルできる量を遥かに超えて消費しています。先進国としての責任を考えないといけないです。

こんなところにマイクロプラスチック？！

‘プラスチックは自然界ではほぼ分解されず、紫外線などで小さく砕かれマイクロプラスチックになります。石油からできているため油に溶けやすく有害物質などがつきやすくなっています。
河口の砂の中、東京湾の７割のイワシ、大阪湾や琵琶湖の４割の魚、そして食塩や蜂蜜、水道水、胎盤などからもマイクロプラスチックが見つかっています。

京都府亀岡市では

原田さんの提案で、市民がゴミの種類や分布を調査。ゴミ拾いをしながらアプリを使ってオンラインごみマップ作り。ゴミ問題に研究者や行政だけでなく、地域住民・市民が一体となって取り組み、対策していくことで解決の糸口になります。市は「かめおかプラスチックごみ０宣言」をし、小売店でのプラスチックのレジ袋は禁止になりました。

中部太平洋上のミッドウェー諸島の映像を視聴。

島に住む死んだ鳥の胃袋からプラスチックのライターやキャップが出てきました。お腹いっぱいだけど栄養失調で命を落としてしまうそうです。

質疑応答

Q：プラスチックを毎日摂取し続けるとどんな病気になりますか？

Ａ：体内に取り込んでも基本すぐウンチに出ます。しかしごくわずかに残る分もあって、それが限界値を超えると大変です！いろんな病気を引き起こすリスクの一つになり得ると言われています。特に体が造られる赤ちゃん（胎児の時も）の時期に摂取すると深刻な影響になる可能性があることが懸念されています。立証はされていませんが、リスクは指摘されているので予防原則としても、今から減らしていったり、規制していくことが大事です。

Q：どんなアクションしたらいいですか？

Ａ：プラごみ問題は、誰もが加害者であり、被害者です。いいことをしている企業には応援メッセージを届けてください。社会のしくみに問題があるので、しくみを作る政治家に有権者が関心を持っていることを伝え、政治家を教育しないといけないです。

グリーンシステムに参加するだけでごみ削減、脱プラができます
キャンペーンにぜひ参加を！

グループに分かれて意見交換

人工芝の破片がマイクロプラスチックとなり、川で見つかっている事に驚きました。今日の話を家族や周りの人に伝えたいです。子育てに忙しく、やむなくプラに頼る生活。地域でのゴミひろいに参加。使い捨てプラ等は買わないようにしています。日本のように生ごみを燃やしているのは世界では非常識、生ごみは紙などと堆肥化するのが世界の流れと聞き、コンポストで堆肥化したいと思いました。政治家と話してみます。
Ｒびんのようにリユースすることが広まって欲しいです。・・など暮らしを振り返り、私たち消費者一人ひとりができることを考える機会になりました。